

がんセンター 便り

宮城県立がんセンター地域医療連携室



ダヴィンチ手術開始しました

低侵襲外科センター長 川村 貞文

令和元年9月からダヴィンチ手術を開始いたしました。宮城県内では5番目の導入となります。泌尿器科の前立腺がんの手術から開始しましたが、今後消化器外科、婦人科、呼吸器外科、頭頸部外科の各科でも手術が開始される予定です。

ダヴィンチシステムでは、術者は患者と離れた場所で、超拡大3D画像を見ながらアームを操作して手術を行います。アームに取り付けられた鉗子の先端は人の手の可動域を超えた動きが可能で、手振れ補正機能があり、安定した自然な動きでミリ単位の精緻な手術を可能とします。開放手術と比べて、出血量が少ない、術後疼痛が軽減する、術後回復が早い、入院期間が短いなどの利点があります。

本邦では、ダヴィンチ手術は、前立腺がん、腎がんの手術に加え、2018年には一挙に、肺がん、食道がん、胃がん、直腸がん、膀胱がん、子宮がんなどに対して12の術式が保険適用となりました。

今日多くの手術は、開放手術から内視鏡を用いる低侵襲手術へと変換されつつありますが、一層急速にロボット手術は普及していくと予想されます。このような状況において、手術を安全に導入するためには、外科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士、事務職員などすべての医療スタッフの協力が必要であり、安全体制の整備は必須です。

そこでがんセンターでは、ロボット手術、腹腔鏡手術など低侵襲手術を安全かつ円滑に運用し、技術の向上をはかることを目的として低侵襲外科センターという診療科・職種横断的組織を立ち上げました。

このようにしてがんセンターは、低侵襲手術を多くの患者さんにトップレベルの水準で「安心・安全」に提供できるよう取り組んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



低侵襲外科センターの役割



向かって左より…
前列 川村貞文(センター長・泌尿器科)
木内 誠(副センター長・消化器外科)
後列 菅原康弘(臨床工学技士)
今野 博(臨床工学技士)



がんセンターフォーラム特別講演のご案内

- 日 時：令和2年2月8日(土) 15:00~16:00(予定)
- 場 所：宮城県立がんセンター 1階 大会議室
- 内 容：「Liquid Biopsy によるゲノム医療に関する講演(仮)」
近畿大学医学部ゲノム生物学教室教授 西尾 和人先生
- 参加無料 申し込み不要
- 問い合わせ先：宮城県立がんセンター 企画総務課

外来新患診療体制表 2019年11月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●	●		●	●
腫瘍内科		●		●		●
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器内科		●	●	●	●	●
頭頸部内科				●		
緩和ケア内科				●		●
呼吸器外科			●	●	●	●
消化器外科			●	●	●	●
乳腺外科		●			●	
整形外科			●		●	
形成外科			●			●
脳神経外科		●		●		●
泌尿器科		●		●	●	
婦人科		●	●		●	
頭頸部外科		●	●		●	
放射線治療科		●	●	●	●	

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151(代) FAX 022-381-1169(地域医療連携室)

交通案内

J 桜交 R 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
仙南交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
県道仙台・岩沼線を利用(所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分～午後5時15分
- TEL (022) 381-5152(直通)
(022) 384-3151(代) 内線123
- FAX (022) 381-1169(地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表)022)384-3151 FAX(企画総務課)022)381-1168

□ゴママークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。



緩和照射について

放射線治療科診療科長 くぼぞの まさき 久保園 正樹

近年のコンピューターの発展に伴い、放射線治療は高精度化しております。当院は治療機器3台を有し、定位放射線治療：SRTや強度変調放射線治療：IMRTなど高精度治療に積極的に取り組んでおります。治療患者数は東北地方の国公立大学病院の中で第2位のhigh volume centerです。（第1位は東北大学です。）一方、実臨床では放射線治療を受ける患者さんの約半数は「緩和照射」を受けています。これは一般に癌の根治や局所制御を狙う「根治照射」ではなく、癌による各種症状を緩和するための放射線治療です。高精度治療は必ずしも必要ありません。骨転移、神経浸潤などによる疼痛、出血（腫瘍からじわじわと出るoozingと呼ばれるもの）に対する治療が主です。腫瘍による気道狭窄や上大静脈症候群、椎体転移による脊髄圧迫解除なども含まれます。根治照射の多くが1日1回2Gyで総線量60-80Gy程度（6-8週間）必要なのに比べて、緩和照射の多くは1日1回3Gyで総線量30Gy（2週間）が歴史的に行われてきました。近年は20Gy/4-5回（1週間）や8-10Gy/単回照射でも臨床効果は変わらないことが多数報告されており、短期の入院や1-2回の外来通院での照射も可能です。実際の流れですが、まず「線量分布図」といわれる設計図を作成します。多くの場合はCTを撮像し、その画像を用いてパソコン上で作成します。CTの撮像体位および照射体位は仰臥位が理想的ですが、疼痛などで仰臥位が難しい場合は側臥位や腹臥位で固定具といわれる型枠を用いて施行する事もあります。10分程度は同じ体勢を保持できないと難しいです。在宅医療などで頻回の通院や入院が困難な場合は、外来を受診していただき、そのまま当日に治療計画CT撮像→線量分布図作成→照射と半日程度で治療することも可能です。他院入院/通院中や院内他科からの紹介患者さんの場合、事前に照射部位のCT、MRI、内視鏡など検査を終了してから当科紹介をお願いしていますが、在宅の患者さんにそのような事は非現実的であり、当科で検査を兼ねて治療計画CTを撮像して適応があるかどうかを判断するという事もあります。保険点数は

単回照射であれば約8000点、複数回照射であれば照射門数にもよりますが1回2000点前後×照射回数です。診察代金や管理料、画像などは別途医療費がかかります。実際にはここで書ききれない細かい要素もありますので、お気軽に電話等にてまず問い合わせ頂きたいと思っております。



向かって左より…ふくい かつや 福井勝哉・きしだ けいた 岸田桂太・くぼぞの まさき 久保園正樹（科長）

「宮城県立がんセンター地域医療連携の会」報告

医療局長兼地域医療連携室長 すずき しんいち 鈴木 眞一

第4回宮城県立がんセンター地域医療連携の会が10月2日（水）に江陽グランドホテルで開催されました。全診療科の関連施設に御案内を差し上げ、83名の院外参加者を迎えての開催でした。講演会・懇親会とも盛会のうちに終了できましたこと、院内外から御参加いただいた方々に紙面を借りて心より御礼申し上げます。今年の講演会のメインテーマは「先端医療」で、当院での3つの取り組み、「がんゲノム医療～当院の体制と今後の展望～」・「低侵襲手術の体制整備」・「食道がんに対する光線力学療法（PDT）」について講演させていただきました。いずれについても多くの御感想・御意見をいただくことができ、御好評いただけたものと存じます。また「緩和照射」について数分でミニレクチャーさせていただきましたが、もっと詳しく知りたいとの御意見が多かったことから、詳細につき前掲載（本紙2面）致しております。今後も、関連機関の方々と直接お会いして意見交換ができる本会を継続・発展させていきたいと考えております。



総長 荒井陽一 挨拶



院長 山田秀和 挨拶



ゲノム医療センター 安田 純



低侵襲外科センター 川村真文



消化器内科 及川智之



放射線治療科 久保園正樹